県高P連広報

発行所
新潟県高等学校
ＰＴＡ連合会
新潟市中央区新光町10-3
技術士センタービルⅡ-701
ＴＥＬ(025)384-8244
ＦＡＸ(025)384-8288
印刷所
㈱小林印刷所

子の心親知らず

新潟県高等学校ＰＴＡ連合会
副会長　**間藤秀一**
（新発田高等学校後援会長）

「子の心親知らず」とは、親は子どものことをいつまでも幼いと思いがちで、実際には成長している子どもの気持ちが分からないものだということわざです。親というのは子どものことを過大評価、もしくは過小評価するかどちらかで、実態を正確に理解できていない方が多いようです。そういう私もその一人だと感じています。思春期のお子さんを持つ保護者の悩みのひとつ「親子のコミュニケーション」。とりわけ「何を考えているのか分からない」とよく耳にします。このたびは、ある心理学者のご助言から３つのケースについてその対処法をご紹介します。

【ケース１】お子さんとのコミュニケーションがうまくいかず困っている方。このような方は、上と下の関係ではなく対等な会話を意識することからはじめましょう。世の中は私たちが子どもだった頃とは変わっています。だから分かり合えなくて当たり前。親の思いはそのままに、好奇心を持って子どもを見つめることで親子の対話が変わってきます。

【ケース２】親子なら「分かり合えるはず・分かり合えなきゃいけない」と思っている方。このような方は、目と心を傾けて聞くことが子どもの安心と新たな対話を生みます。お子さんの話を聴く時、耳だけでなく目と心を傾けていますか。お子さんの言葉を受け止め、関心を持って聴いていますか。スムーズな対話の第一歩は、自分自身の聴く姿勢を見直すことです。

【ケース３】お子さんに対する保護者としての思いやアドバイスの伝え方に悩んでいる方。このような方は、アイ（私）メッセージで思いを伝えましょう。お子さんの気持ちを尊重したいと思うあまり、自分の気持ちを閉じ込めて伝えることを諦めていませんか。お子さんの気持ちを引き出したいのなら、あえて自分の気持ちを伝えることが大切です。

いくら親子でも、親が子どもの行動を変えることはできません。変えることができるのは自分自身の思考と行為だけ。変えることのできない子どもの行動に一喜一憂せず、お子さんを大切に思う気持ちを行動で示すことに集中していきたいものですね。

「日々の努力と感謝」

十日町高校生物部保護者
野﨑　健

十日町高校に進学し、部活動は何をするのかなと思っていたところ、生物部に入ったと報告がありました。

小さい時から、生き物（魚）が好きで、特に錦鯉については夢中になり、それは今も続いています。

当初県代表は難しいということを訊いていましたので、県代表に決まったときは、感動しました。

これまで十日町高校生物部は、希少淡水魚シナイモツゴとホトケドジョウの研究で、四回（信州、さが、紀の国わかやま、とうきょう）全国大会に出場しており、歴代の先輩たちは、そのすべての大会で入賞してきました。そのような実績がある中で、入賞へのプレッシャーがあったものと思います。

発表の準備で土日はもちろん、夜遅くまで準備をしていました。

結果、全国高等学校総合文化祭岐阜大会自然科学部門で奨励賞を受賞することができました。

生物部での経験は、今後の人生に必ず活きるものと思います。

結びに、学校のかたがた、研究に協力いただいた元顧問の馬場先生、「里山わらび」の小海代表、生物部の皆さん、関係者の皆様に感謝申し上げます。

『連覇達成！』

佐渡高等学校相川分校バスケットボール部保護者
中川　健寿

前回、大逆転の末に果たした初優勝。次なる目標は全国大会連覇に変わりました。

学業はもちろんのこと（？）アルバイト等にも励みながら、目標に向かってバスケットボールに打ち込んできた選手たち。そして多くの方々のご支援とご協力をいただきながら、全国大会を迎えました。初戦は大苦戦！初戦の難しさ、連覇の難しさを感じましたが何とか勝利。そのあとの試合は「出方を伺う」から「出鼻をくじく」戦い方に。序盤から集中力を発揮し試合に臨みました。途中、苦しい展開になることもありましたが、最後は勝ち切るという試合を見せてくれました。決勝戦では、圧倒的な強さで勝利を収めました。

今回は、保護者はもちろんのこと、在京の方々、そして佐渡からもバスケットボールの関係者が応援に駆けつけてくれました。来場できなくても、インスタライブ等で応援してくださった方々もいらっしゃいました。そのどれもが本当にありがたく、選手の励みになったものと思います。今後も相川分校バスケットボール部は精進を続けていきます。私たちもできるだけ支援をしていきたいと思っています。

地区研修会

新潟地区　新潟商業高校

ＰＴＡ会長　渡邊　義男

十一月二十日(水)、新潟東映ホテルで、新潟地区ＰＴＡ指導者研修会を開催しました。はじめに県高Ｐ連会長の古川　憲様からのご挨拶に続き、県高Ｐ連の活動報告をいただきました。

研修会では、県教育庁生徒指導課いじめ対策室副参事・指導主事　真貝康広様から、いじめ等の防止及び自殺予防についてご講演をいただきました。続いて、小池ろうそく店小池深香様から、シンガーソングライターから越後花ろうそくへ～変化する自分を愛すること～と題してご講演いただきました。音楽が好きな家族の中で育ち、中学生から二十代前半まで国内外でＬＩＶＥ活動を行うなど、音楽を仕事とすることも考えたが、理想と現実の狭間で挫折も経験し、結果、家業を継ぐため絵師の道を選んだ。「前に進もうとする気持ちが自然と湧いてくる」青春時代、経験してほしいことや応援してもらった両親への感謝の気持ち、そして、花ろうそくに込めた想いなどについてお話いただきました。

教育懇談会も開催し、大変有意義な情報交換を行うことができました。ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。

新発田・村上地区　新発田南高校

ＰＴＡ会長　渡辺　宗貴

下越北地区高等学校ＰＴＡ指導者研修会は、十一月十一日（月）、新発田カルチャーセンターを会場に開催されました。当日は約四十名の方々からご参加をいただきました。

はじめに県高Ｐ連の間藤副会長より活動報告をいただき、その後に下越北地区高Ｐ連の書面審議を行いました。休憩の後、新潟大学名誉教授の長澤正樹様を講師に迎え、「子どもの問題行動へのエビデンスある対応術」と題してご講演をいただきました。「自己肯定感を高めるかかわり」や、「応用行動分析による困った行動への対応」など、とてもわかりやすく、また、共感の持てる講演内容でした。休憩を挟み、新潟県教育庁生徒指導課いじめ対策室副参事の真貝康広様より、「いじめ等の防止及び自殺防止について」と題しまして、いじめ対応の件数や現状を踏まえて講話をいただきました。保護者と学校が連携し、子どもが発するＳＯＳを敏感に察知するアンテナを、これからも張り続けなければと改めて痛感いたしました。

ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。また、ＰＴＡ役員の皆様、準備にご協力いただきました教職員の皆様、本当にありがとうございました。

巻地区　巻高校

ＰＴＡ会長　桑田　聡

巻地区研修会は十一月二八日（木）巻高校にて開催されました。当日は四校から三〇名の参加を頂きました。はじめに県高Ｐ連の今年度の活動状況、北信越及び全国大会の報告がありました。次に県教育庁生徒指導課副参事の真貝康広様から「いじめ等の防止及び自殺防止について」と題して御講話をいただきました。子どもたちをいじめや自殺から守るためには私たち保護者の理解と協力が不可欠であることを再認識しました。

後半は各校活動状況の報告の後、新潟県立大の角張慶子先生をお招きし「青年期の子どもの心と親心」と題し、御講演をいただきました。高校生世代と私たち親自身の世代の心理的特徴と対応について、大学生の声などもご紹介いただき、分かりやすく説明していただきました。役員だけでなくＰＴＡ会員全員にも聴いてもらいたいような内容でした。

研修会後実施され五年ぶりの開催になる教育懇談会では、和やかな雰囲気の中、各校活動の情報交換が活発に行われ、大変有意義な会となりました。御参加、御協力を頂きました皆様に感謝申しあげます。

新津地区　新津工業高校

ＰＴＡ会長　辻川　陽子

十一月八日（金）新潟市秋葉区の新津地域交流センターにて新津地区ＰＴＡ研修会が行われました。県教育庁生徒指導課いじめ対策室長髙松利治様より近年のいじめのケースや事例をお話いただき、学校と保護者が連携しながら、いじめ防止に努める事の重要性を改めて考える時間となりました。

次に、株式会社曽川製作所代表取締役曽根亮子様より「夢を叶える子どもとの関わりかた～家庭人として、社長として、人材を活かし、夢を叶える～」と題して講演をいただきました。幼稚園教諭のご経験を持つ曽根様のお話はとても興味深く、夢を持ち続ける事の大切さや情熱、そして常に感謝の気持ちを持ちながら人と関わる姿勢に感銘を受けるとともに、今後の子育てや仕事にも生かせるヒントをたくさんいただく事ができました。

その後会場を移して教育懇談会を実施しました。曽根社長を囲んでの懇談会は大変意義深く、参加された会員にとっても貴重な情報交換や交流の機会となりました。

今研修会および教育懇談会の開催にあたり、ご協力いただきました各校の校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆様に感謝申し上げます。

長岡地区　長岡農業高校

ＰＴＡ会長　宮下　あさみ

十一月二十七日（水）アトリウム長岡にて、長岡地区ＰＴＡ指導者研修会を開催いたしました。

当日は、県高Ｐ連副会長、今井進太郎様からのご挨拶を皮切りに、引き続き、令和六年度の全国高Ｐ連大会と北信越大会のご報告をいただきました。

次に、県教育庁生徒指導課支援・相談班副参事・指導主事の近藤宏様より、いじめ防止及び自殺防止について、いじめの定義やいじめの対応、子どもとの関わり方についてのご説明をいただきました。

その後、ミライ発酵本舗（株）代表取締役社長の水流潤太郎様より「『近者悦、遠者來』の観光まちづくり」と題してご講演いただきました。まざる、つながる、うまれるをコンセプトに協働ネットワークを構築し、摂田屋・宮内地区を新しい観光スポットとして活性化させる取組など、非常に興味深いお話しに引き込まれました。

教育懇談会も有意義な情報交換の場として楽しいひとときとなりました。参加いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

魚沼地区　八海高等学校

ＰＴＡ会長　佐藤　俊一

魚沼地区高等学校ＰＴＡ研修会は、十一月八日（金）ほてる木の芽坂にて開催されました。

はじめに、県高Ｐ連の今年度活動計画及び報告の後、県教育庁生徒指導課いじめ対策室指導主事山田茂様より、いじめ等の防止及び自殺防止についてご講演をいただきました。学校のいじめ対応や子どもとの関りについて、具体的事例をもとに大変分かりやすくご説明いただきました。

研究協議では、小出高等学校、国際情報高等学校、十日町高等学校のＰＴＡ活動等について発表がありました。生徒を中心とした各校の取り組みや連携について、有意義な情報共有ができました。

後半の部では、一般社団法人雪国青年会議所副理事長、嶋田健悟様からご講演をいただきました。地域において人間関係が希薄となっている現状とその背景を捉えつつ、「雪国らんたん」や「塩沢紬体験」等の活動を通じ、地元の高校生と地域住民が交流する場を提供することで地域の活性化を図っている様子が良く理解できました。また、その後の教育懇談会でも、嶋田様を囲み多くの交流が生まれていたことも印象的でした。

皆さんのご協力により、大変有意義な研修会となりましたことをご報告するとともに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

三条・燕・加茂地区　三条商業高校

ＰＴＡ会長　小野沢　伸二

十一月二十二日（金）、三条ロイヤルホテルで開催され、七校三十一名が参加しました。

最初に県高Ｐ連理事、三条東高校ＰＴＡ会長の皆川能治様から今年度開催の大会報告、次年度大会の概要、ＰＴＡ互助会等補償制度のご説明をいただきました。

次に、県教育庁生徒指導課いじめ対策室長の髙松利治様から「いじめ等の防止及び自殺防止について」と題してご講話いただきました。家庭で育てる非認知能力の重要性、いじめ等防止のための学校の取組と保護者の支援、子どものＳＯＳの捉え方等を学ぶことができました。

各学校の活動状況の報告後の教育講演会は「食育の推進」と題して三条市落合智子様、小柳麻子様、藤﨑佳奈恵様からご講演いただき、ＳＡＴシステムによる実習を踏まえながら高校生の食事支援について改めて考える機会となりました。

研修会後の教育懇談会では各校の親睦を深め、半日間の日程を無事に終えることができました。開催のご協力をいただいた各校の関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

柏崎地区　柏崎翔洋中等教育学校

ＰＴＡ会長　大金　一二

柏崎地区高等学校ＰＴＡ研修会は、十一月十九日（火）、柏崎市立図書館を会場に、開催されました。

地区高Ｐ連会長の挨拶、県高Ｐ連の活動概要と令和七年度の活動計画の説明の後、県教育庁生徒指導課いじめ対策室長の髙松利治様より、「いじめ等の防止及び自殺防止について」と題し、ご講話いただきました。

研究発表として、私より柏崎翔洋中等教育学校ＰＴＡの取組について発表いたしました。

続いて、地元企業のリケンＮＰＲ株式会社の小山清様と、青野道彦様より、「リケンＮＰＲが描く水素社会ビジョン」と題し、環境・エネルギー問題に取り組む活動についてご講演をいただきました。

その後、新潟産業大学附属高等学校野球部保護者の平野大様より、「子どもたちの成長～甲子園出場をとおして～」と題して、ご発表いただきました。

関係の皆様のご理解とご協力のお陰で、多岐にわたる内容の有意義な研修会を開催することができましたことに、感謝申し上げます。

高田・直江津地区　海洋高校

ＰＴＡ会長　小林　美樹

十一月二十二日（金）、高田・直江津地区研修会を上越市ホテルハイマートにて開催いたしました。

はじめに、県高Ｐ連永井副会長様からご挨拶と県高Ｐ連の活動報告、さらに全国高Ｐ連大会茨城大会の報告をいただきました。続いて北信越地区研究大会長野大会の報告を海洋高校から行いました。研究協議では直江津中等教育学校から「ＰＴＡ活動の取り組み」と題して、特色ある活動について発表を行っていただきました。

続いて、講話として県教育庁生徒指導課指導主事の山田茂様より「いじめ等の防止及び自殺防止について」と題して、二つの課題について現状を踏まえたお話をいただきました。

最後に、糸魚川で活動されている専門里親の山田友子様から「育ち愛～里親として学んだこと～」と題し、二十九年前に里親になることを思い立ってからこれまで、家族と協力しながら二十四人の里子を育て上げた貴重な経験について、時に笑いも交えながら、親として教育者として子どもとの望ましい関わり方について示唆に富むお話をしていただきました。

研修会終了後は、教育懇談会を盛大に実施いたしました。当地区のＰＴＡ活動が、益々発展することを確信した研修会となりました。

佐渡地区　佐渡総合高校

ＰＴＡ会長　小保　祥一

十一月八日（金）に国際佐渡観光ホテル八幡館にて行われ、五十三名の皆様に参加していただきました。まず、県高Ｐ連理事で佐渡高校校長川上豪様から、開会のご挨拶と研修会資料のご説明をいただきました。次に、県教育庁生徒指導課支援・相談班指導主事阿部茂雄様よりご講話をいただき、いじめの定義や学校の対応と子どもとの関わり方等を学ぶことができました。続いて、研究課題「保護者の役割～食育の推進、情報モラルの育成～」について、佐渡市役所相川支所福祉保健係長吉良美代子様から、佐渡高校相川分校における食育活動「あったか食堂」について、発表していただきました。また、県佐渡警察署生活安全係長笠原直人様から、情報モラルの育成について、ご説明をいただきました。グループ協議では、他の学校の会員と意見交換を行い、「保護者の役割」について、改めて深く考えることができました。

最後に佐渡市地域振興部移住交流推進課長西牧孝行様から「若者が暮らし続けたいと思える島づくりに向けて」と題して、佐渡における転入者の現状と地域創生に関する取り組みをご紹介いただきました。

各校のＰＴＡ会長、役員、教職員の皆様のご支援により、充実した研修会となり、感謝申し上げます。

県高Ｐ連総会・安全互助会総会開催予告
六月六日（金）イタリア軒で

日時　令和七年六月六日（金）
十二時四十分～十七時

会場　ホテル イタリア軒（新潟市）

例年どおりの日程と内容で実施する予定です。提案発表校は、次の四校です。

第一発表　柏崎常盤高校
第二発表　新津工業高校
第三発表　新潟江南高校
第四発表　長岡大手高校

北信越地区高Ｐ連研究大会開催予告
令和七年度は福井市で開催

期日　令和七年七月十一日（金）～十二日（土）

会場　福井フェニックス・プラザ
（福井市田原一丁目十二―六）

教育懇談会　ホテルフジタ福井　又は
コートヤード・バイ・マリオット

大会テーマ　全国大会に準ずる

新型コロナウィルス感染拡大が収束に向かいつつある中、ようやく以前のような規模の大会が開催できるようになりました。県高Ｐ連総会での提案発表校四校のうち、柏崎常盤高校は壇上発表、他の三校には、北信越地区高Ｐ連福井大会資料で誌上発表をしていただきます。各単Ｐからの申込みは、五月初旬の予定です。多数の参加をお待ちしています。

全国高Ｐ連大会開催予告
令和七年度は三重県で開催

期日　令和七年八月二十一日（木）～二十二日（金）

会場　津市産業スポーツセンター
（津市北河路町十九―一）

大会テーマ「出会いはじまる常若（とこわか）のくに」

サブテーマ　～「集い、想い、継なぐ」三つの重なる明日への力～

令和七年度の全国大会は、現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式により、津市にて開催される予定です。

三重県は「国生み神話」の舞台であり、伊勢神宮で行われる式年遷宮は、「常若思想」に基づいています。社会が大きく変わる時代の中で、「常に新しく本質を伝承していく」常若思想をＰＴＡ活動にも採り入れたいと願い、三重の地に集い＝人との関わりを大切にし、想い＝知恵をしぼり、継なぐ＝明るい未来へ希望をつなぐ、この三つの明日への力が湧き上がる機会になることを期待しています。

新潟県の各単Ｐからの参加申込みは、六月初旬の予定です。多数の参加をお待ちしています。

【調査広報委員会委員】
◎新潟工業高校Ｐ会長　井上　沙織
新潟高校Ｐ会長　神田　健史
新潟南高校Ｐ会長　櫛谷　努
新潟西高校Ｐ会長　小玉　美加
新潟高校長　市野　正廣
新潟北高校長　星　達哉
新潟商業高校長　小畑　智嗣
高志中等教育学校長　灰野　仁
●新潟向陽高校長　岩崎　啓
◎委員長　●事務局
（事務局所在地）
新潟向陽高等学校
新潟市江南区亀田向陽四―三―一
ＴＥＬ〇二五（三八二）三二二一
ＦＡＸ〇二五（三八一）一八三一

編集後記

今号より県高Ｐ連広報はデジタル配信を開始いたしました。最近の小学校では学校からのお知らせはアプリなどで管理され、親のスマートフォンに直接届くシステムになってきているそうです。これも時代の流れなのでしょうか。昭和の頃は先生が沢山のお知らせを配る時間があったのを懐かしく思います。

調査広報委員長　井上